



益田市二条地区

ICT技術・IoTデバイスを活用した有害鳥獣対策 ～元気な邑づくりをめざして～

地区の課題解決に向けて、「定住対策・次世代育成・里山保全・歴史や文化の継承・地域資源の掘り起こし・特産品のブランド化・情報発信・地区内外との交流」など、様々な活動をつなげる「元気な邑づくりサイクル」に地域ぐるみで取り組んでいます。

これまでの地区のあゆみ

- H24 二条公民館が県教育委員会のモデル公民館に指定される
- H25 「二条地区の将来をみんなで考えよう」住民集会を開催

- H26 地域自治組織「二条里づくりの会」を設立
「二条ふるさと便」がスタート

- H26 県の現場支援地区に選定 (H26.11～H28.3)
- H27 益田市から地域自治組織「第1号」の認定を受ける
「元気な邑づくりプラン」を策定
「有害鳥獣対策」がスタート
「お試し体験古民家住宅 つどい」を開設
- H30 「中国四国地域 鳥獣被害対策優良活動表彰」を受賞
- H31 「ふるさとづくり大賞 総務大臣表彰(団体表彰)」を受賞

Step 小さな拠点づくりのステップ

step.1 共有 地域資源を活かして

モデル公民館に指定されたことをきっかけに、地域資源である「蛭」を活かした里づくりを開始。機運を盛り上げていくために集会を開催し、戸別に聞き取り調査を行って地域の課題や宝の洗い出しと共有をしていきました。

step.2 体制 活発な議論ができる組織づくり

公民館が中心となり、まず準備委員会を立ち上げましたが、地域内の活動団体の長が集まる会議であったため、活発な議論につながりませんでした。その反省をもとに、2年をかけて若者や女性をしっかりと巻き込んで地域自治組織を立ち上げました。特産品販売などに取り組む「なりわい部会」、移住・定住や交流促進を担う「ひと部会」、有害鳥獣・高齢者対策などを受け持つ「くらし部会」の3部会を設置して活動をしています。

step.3 計画 「何ができるか」「何がしたいか」

地域の課題に対し「何ができるか、何がしたいか」を話し合い、県の支援も受けながら、今後の「邑づくり」へ向けた具体的な計画「元気な邑づくりプラン」を策定しました。



step.4 実践 3部会が活発に活動

それぞれの部会で、有害鳥獣対策や自主防災活動、二条ふるさと便、定住・移住のサポート、二条ホテル祭の開催などに取り組んでいます。

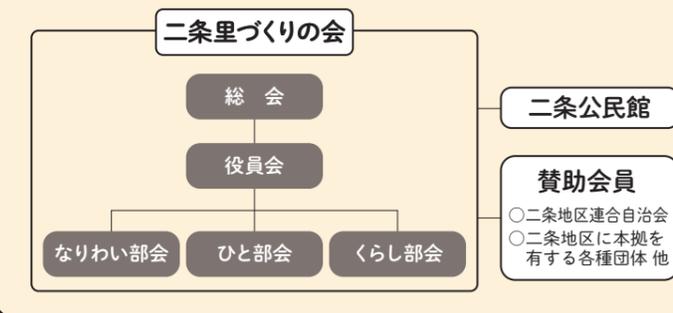
step.5 継続 誰もが住みやすい地域へ

「昔ながらの、程よく手の行き届いた里山」を取り戻すことを目指し、今できることにしっかりと取り組んでいきます。そのためにも、地域で活動を展開している既存の団体との関係を風通しの良いものにし、ともに地域の発展に向けて力を合わせていきます。また、地区内商店が閉店したこともあり、買い物支援や移動手段の検討も始めています。



- 人口 500人(高齢化率 52.4%)
- 地域の特徴
 - ・山口県との県境に位置し、市の中心部まで車で約25分
 - ・公共交通機関は民間のバスと市運営の生活バス、乗合タクシーが運行
 - ・近年、ガソリンスタンドやいくつかの個人商店などが地区から姿を消した

体制図



Pick UP

私たちのやり方 Our Project



住民や猟友会と一体になって進める 地域ぐるみの有害鳥獣対策

二条地区では人口減少に伴い、耕作放棄地や放置竹林が増え、鳥獣害が深刻化。農家の耕作意欲の減退を招いていることに危機感を抱きました。くらし部会が「鳥獣被害防除隊」を設置し、猟友会メンバーが「捕獲班」の構成員となり、罠を使った対策等の検討を始めました。民間事業者の力も借りてICT技術やIoTデバイスを活用し、これまでにない方法で鳥獣害対策を進めています。

まちのひとの声



クマやサルを見つけて連絡すると、嬉しいことにすぐに捕獲班のメンバーが来てくれるんですよ。



二条地区に移住するまでに様々な地域を見てきましたが、ここの有害鳥獣対策は本当に素晴らしいです！

step.1 課題

地区内に増えてきたイノシシ、サルやアライグマなどの有害鳥獣による被害が大きくなり、耕作意欲の減退が深刻な状況になっていました。

step.2 計画

住民がサルやイノシシを目撃した場合はすぐに「連絡員」や公民館に連絡し、防災無線により地区内で迅速に情報共有する仕組みをつくりました。さらに、活動を知った市内の事業者から提案があり、ICT技術とIoTデバイスを活用した「サル囲い檻」の試行品の提供を受けることになりました。

step.3 トライ

カメラ、センサー、通信機器を活用して遠隔で操作する「サル囲い檻」を山中に設置。捕獲したサルはGPS発信器を取り付けて放します。GPS情報でサルの群れの位置を把握し、動きを予測して対策をとることで被害を未然に防いでいます。



step.4 改善

民間事業者の協力のもと、機器の操作習熟や改良などにも取り組んでいます。実際に使った地域住民の意見は「サル囲い檻」の出口を封鎖する仕組みの改良などに繋がっています。

二条と出身者・ファンをつなぐ! 「二条ふるさと便」

平成26年から始めた「二条ふるさと便」はお中元とお歳暮の時期に年間2便。地区の農家や農事組合法人が作る二条米や煎りえごま、猪カレーリゾット、猪肉ジャーキーなど、二条の「おいしい! 産品」をお届けしています。販売手数料は二条里づくりの会の貴重な収入源となっています。



移住・定住に一役! 「お試し体験古民家住宅 つどい」

「ひと部会」は、古民家を改修して造った「つどい」を拠点に移住・定住の取組を推進。これまでに「Uターン者: 28組46名、Iターン者: 18組40名」と着実に成果を挙げています。

